



出庭遺跡 (栗東市出庭)

出庭遺跡は、古墳時代～近代の集落跡です。

平成 30 年度～令和 4 年度に行なった発掘調査では、古墳時代中期（約 1,600 年前）の鍛冶工房や玉造工房に使われた竪穴建物跡などが見つかりました。これらの建物跡からは、須恵器・土師器といった当時よく使われた土器のほか、大陸からの渡来人が作った韓式系土器も見つかりました。



鍛冶工房と考えられる竪穴建物跡

蜂屋遺跡 (栗東市蜂屋)

蜂屋遺跡は、野洲川左岸の平野部に広がる、縄文時代～江戸時代の集落跡です。

平成 28 年度～令和元年度に行なった発掘調査では、古墳時代から鎌倉時代までのたくさんの遺構・遺物が見つかっていて、ながく人々が暮らしてきたことを物語っています。とくに、飛鳥時代（7世紀後半、およそ 1,300 年前）の区画溝跡や約 16 トンにもおよぶ瓦は、当時この地にお寺があったことを示しています。



見つかった軒丸瓦

《古代瓦キーホルダーのデザインのもとは?》

古代瓦キーホルダーのデザインは、蜂屋遺跡で見つかった飛鳥時代の軒丸瓦の模様をもとにしています（原型制作：文堂準氏）。奈良県法隆寺の瓦と同じ模様が使われていて、この模様を「法隆寺式」といいます。蜂屋遺跡の寺と法隆寺との深いつながりがうかがえます。

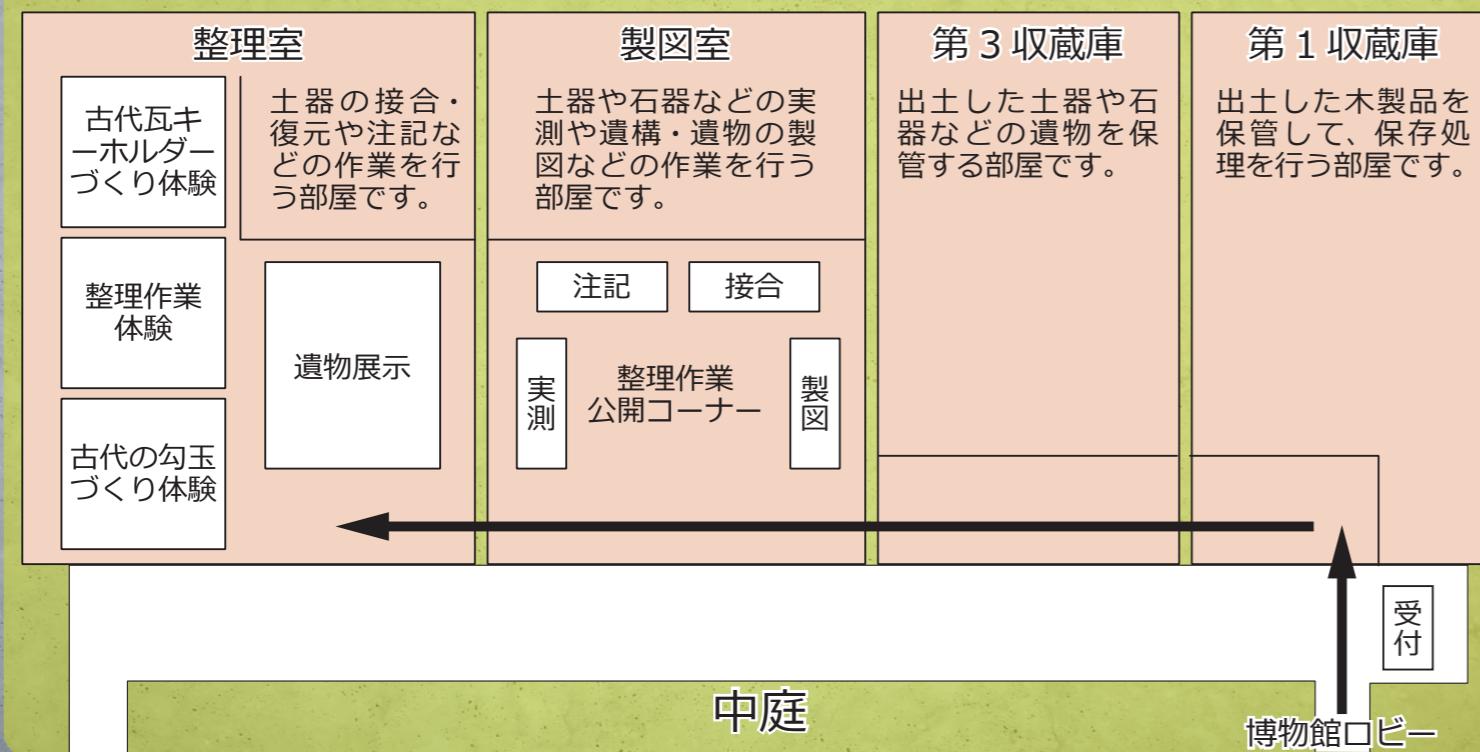
「複弁蓮華文」と呼ばれるこの模様は、蓮の花を模したもので、東大寺の大仏をはじめ、仏像の台座の多くも蓮の花をかたどっています。蓮は泥から生えているのに美しい花を咲かせるため、極楽浄土を表す仏教を象徴する花なのです。



蓮の花

「本瓦葺」の軒丸瓦と軒平瓦

《会場案内図》



整理室へようこそ!! 見て・触れて・感じる考古学

整理室では…

整理室では、発掘調査で見つかったモノの“資料化”を行っています。整理作業を行うスタッフが、見つかった場所の情報をモノに書いたり（注記）、土の中でバラバラになってしまった土器をくっつけて元の形に戻したり（接合・復元）、測って図にしたり（実測）、できた図をデジタル化したりして（製図）、『発掘調査報告書』を作っています。スタッフたちの熟練のワザを、ぜひ目の前でご覧ください。



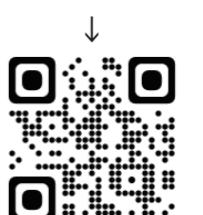
まめのぶくん



公益財団法人滋賀県文化財保護協会

ホームページ
最新情報

Youtube
「しがぶんちゃんねる」



しがぶん
ちゃん

◇ 整理調査中の遺跡を紹介 ◇

御館前遺跡（近江八幡市千僧供町）

御館前遺跡は、日野川右岸の扇状地に立地します。近接して県史跡千僧供古墳群や古代東山道があるほか、以前に行われた発掘調査で奈良時代の木簡や墨書き土器などが出土したことから、蒲生郡衙に関連する施設があったと推定されています。

令和4～7年度に行った発掘調査では、弥生時代後期（約1,800年前）の竪穴建物跡や円形周溝墓、古墳時代中期～後期（約1,500～1,400年前）の竪穴建物跡や方形周溝墓、鎌倉時代前期（約800年前）の掘立柱建物跡や土坑墓などが見つかっていて、各時代に集落や墓域としてこの地域一帯が使われていたことがわかります。このほか、奈良時代（約1,300年前）の掘立柱建物跡も見つかっていて、蒲生郡衙に関連する建物と考えられます。



弥生時代後期の五角形の竪穴建物跡



鎌倉時代前期の掘立柱建物跡

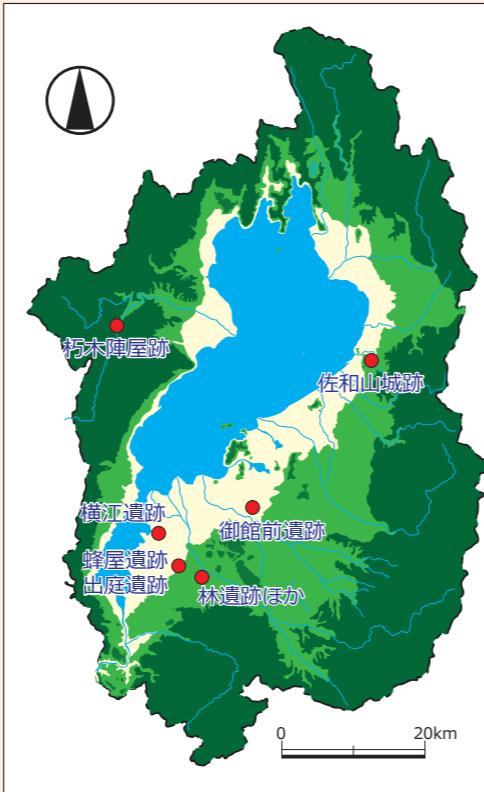
佐和山城跡（彦根市鳥居本町ほか）

佐和山城跡は、彦根市北端の佐和山丘陵の中央部に位置する、室町時代～安土桃山時代の城館跡です。はじまりは鎌倉時代前期に近江守護・佐々木定綱の六男時綱が構えた館といわれています。戦国時代（約500年前）には湖北の京極氏・浅井氏と湖南の六角氏が戦いを繰り広げ、のちに織田信長と浅井長政の争いの舞台となりました。天正18年（1590）に石田三成が入城して、大規模な拡張を行ったと考えられています。慶長5年（1600）の関ヶ原の戦いで三成が敗れるとまもなく落城し、のちに徳川家臣の井伊直政が入城しました。しかし、慶長8年から西側にある彦根山に新たな城が築かれて、城下町までも彦根城へと移されました。

平成30年度～令和4年度の発掘調査では、城下町のメインストリート「本町筋」や三成による拡張で掘られたと考えられる外堀跡などが見つかりました。陶磁器には信楽焼など国内産のほか中国産磁器もあり、当時の流通の広さがうかがえます。



城下町の橋台遺構と南北方向の溝跡



横江遺跡（守山市横江町）

横江遺跡は、野洲川左岸の扇状地に広がる縄文時代～室町時代の集落跡として知られ、以前に行われた発掘調査では、古墳時代と鎌倉時代～室町時代の大きな集落跡が見つかっています。

令和5・6年度に行った発掘調査では、新たに弥生時代中期（約2,000年前）の方形周溝墓や、古墳時代を通じて用水路や排水路として使われた河川・溝跡などが見つかりました。また平安時代後期～鎌倉時代（約900年前）の掘立柱建物跡もたくさん見つかり、当時の集落が広がっていたと考えられます。これらの建物の向きはほぼ同じですが、これは当時の栗太郡に施行された条里地割（どの田んぼも同じ広さになるようにした四角形の区画）と同じ向きになっています。

林遺跡ほか（栗東市林ほか）

県道の整備事業に伴い、令和5・6年度に発掘調査を行った林遺跡・岩畠遺跡・六地蔵遺跡は、野洲川左岸の扇状地に隣り合って立地する、縄文時代～江戸時代の集落跡として知られています。

今回の発掘調査では、岩畠遺跡で弥生時代末～古墳時代前期（約1,700年前）の竪穴建物跡などが見つかったほか、六地蔵遺跡で古墳時代中期～後期の竪穴建物跡や溝跡などが見つかりました。また、林遺跡では、鎌倉時代前期の掘立柱建物跡や井戸跡、それらの屋敷地を区画する溝跡などが見つかりました。これらの時代に、この地域一帯に集落が広がっていた様子がわかりました。

朽木陣屋跡（高島市朽木野尻）

朽木陣屋跡は、室町時代の居館跡及び江戸時代の陣屋跡です。鎌倉時代前期の承久3年（1221）より土豪朽木氏がこの地に館を構えたとされ、陣屋（1万石程度の領地を持つ大名の政務場所）に整備されたのは17世紀初めと考えられています。

令和4年度に行った発掘調査では、東隣の平成12年度調査で見つかりていた幅5m以上の堀跡や道路の続きなどが見つかりました。



弥生時代中期の方形周溝墓



平安時代後期～鎌倉時代の掘立柱建物跡



鎌倉時代前期の井戸跡（林遺跡）



朽木陣屋の堀跡と登城道跡